



## 令和4年度博・学連携先進施設視察研修を実施

今年度は、奥州市立後藤新平記念館と奥州市立斎藤實記念館を視察しました。参加者は、博・学連携研究委員8名（1名欠席）と博物館職員5名の合計13名でした。コロナ感染拡大を防ぐため、今年度も研究委員以外の先生方の参加希望はとりませんでした。

### 奥州市立後藤新平記念館

私達が到着して間もなく、奥州市内の小学校が見学に来館したので、最初に、後藤新平記念館の学校見学への対応の様子を見せて頂きました。その後、水沢市後藤伯記念公民館に会場を移し、佐藤館長からスライドを使って説明をしていただきました。



奥州市内の小学校が見学に来館



公民館で佐藤館長の説明を聞いている様子



中村学芸調査員の解説の様子

### (説明の一部)

- ・奥州市は、教育行政の方針の中に、「歴史遺産の公開と活用」が位置づけられており、各学校の裁量で、「道徳」や「特別活動」或いは「総合的な学習の時間」で先人教育が取り上げられている。
- ・学校の見学の際は、クラス単位（30名程度ずつ）で1時間の時差をつけて来館してもらい、職員3名で受付業務、館長挨拶、館内案内等役割分担をして対応している。
- ・50～60名ぐらいの人数が一気に来館した場合は、1階と2階に分けてスタートするか、隣接の「後藤伯記念公民館」を案内する等、極力人数を分散させる。人数が多ければ多いほど、集中できない児童・生徒が増加する。
- ・市内の各館が出前授業に対応していることを教育委員会が年度当初に学校に説明しているが、依頼はほとんどない。授業としては、記念館を訪れ本物の資料を見ながら解説を聞く、というスタイルを大切にしているようだ。
- ・教育普及の取り組みとして、市内の小学校5・6年生を対象に、後藤新平に関する検定（新平小検定）を実施し、全問正解者には認定書とキーホルダーを贈っている。

次に、後藤新平の一生についても解説をしていただき、さらに、展示室や隣接の後藤伯記念公民館を見学させていただきました。見学を終えた先生方の中には、「生徒にも見せたい。」「広めたい。広めるのが博・学連携だ。」「NHKの朝の連続ドラマになりそう。」等とおしゃる方もありました。

### 奥州市立斎藤實記念館

午後からは、武家住宅資料館を見学をした後、奥州市立斎藤實記念館を視察しました。斎藤實記念館では、最初に記念館に接続している旧宅の和室で瀬川館長から説明をいただきました。この旧宅では、春子夫人が99歳まで暮らしていたということです。

#### (説明の一部)

- ・小中学校の見学では、玄関前ホールで「斎藤實の生涯」の話聞かせ、その後は記念館1階、2階、旧宅と3班に分かれて見学をしている。3名いる職員をそれぞれに配置し、個別質問に対応している。
- ・見学時間が長い場合は、顕彰会が平成27年に作成した紙芝居を、パワーポイントに落とし込んだプレゼンテーション資料を使って、40～50分の講義を行い、その後見学してもらっている。
- ・出前授業には依頼があれば対応するが、コロナの関係もあり依頼が無く行っていない。この館の魅力は本物がたくさんあるということなので、直接来てもらい見学することを大切にしていきたい。
- ・教育普及として「冬の3館ウォーク」（11月3日～1月29日）を行っている。



瀬川館長から説明を受けているところ



軍艦タイプの図書室へ入る様子



2階展示室での見学の様子

記念館には、斎藤の海軍兵学校時代のノートや勲章等々の他にも、二・二六事件の際の弾丸の当たった鏡や、血の付いた寝具も展示されていて、研修に参加した先生方が、食い入るように見ていたのが印象的でした。

## 共同企画展「山の暮らし」が始まります

12月10日（土）より開催されます。この企画展では、山を生業の場として暮らして来た人々が使用していた様々な道具や、当時の様子を表す写真を展示し、花巻での山の暮らしに迫ります。

また、特別巡回展示「選奨土木遺産認定記念」北上川5大ダム3D模型・パネル展を同時開催しますので、是非ご覧下さい。

関連イベント(申込み不要、要入館料)

12月17日(土)ギャラリートーク 13:30～

1月21日(土)ギャラリートーク 13:30～

